

特許検索事例研究会 ～拒絶理由に学ぶ特許検索式の立案ノウハウ～

「演習問題3：柑橘系果汁飲料」の事例解説

1. 演習問題3の内容

演習問題3の題材公報は「[特開 2016-096756](#)：柑橘系果汁飲料」です。この特許出願の請求項1の新規性を確認するための検索式を検討してください。

【発明の名称】柑橘系果汁飲料

【要約】【課題】香味成分の劣化が抑制された柑橘系果汁含有飲料、特に、レモン果汁のような柑橘系果汁含有飲料の長期間保管に対して、香味成分の劣化を効果的に抑制し、かつ、香味成分の劣化抑制に際して、柑橘系果汁含有飲料の香味への影響を回避して、香味の良い柑橘系果汁飲料を提供すること。

【解決手段】本発明は、柑橘系果汁含有飲料の製造において、(1) 柑橘系果実由来の精油成分と、果実由来のパルプ含有果汁とを混合し、該精油成分をパルプに吸着させたパルプ吸着精油成分含有果汁を、調製する工程、(2) 該パルプ吸着精油成分含有果汁を飲料製造原料に添加して、柑橘系果汁含有飲料を製造する工程を採用することにより、香味成分の劣化を抑制した柑橘系果汁含有飲料を製造する。該方法を採用することにより、飲料の香味に影響を与えず、有効な香味成分の劣化抑制効果を得ることができる。

【請求項1】

柑橘系果実由来の精油成分と、果実由来のパルプを含む果汁とを混合して調製される柑橘系果汁含有飲料であって、

柑橘系果汁含有飲料中の乾燥重量当たりのパルプ分に吸着された精油成分の油滴数が、 $150\text{個}/\mu\text{g}$ 以上、 $500\text{個}/\mu\text{g}$ 以下である

ことを特徴とする香味成分の劣化を抑制した柑橘系果汁含有飲料。

そして、拒絶理由の中で、【請求項1】の新規性を否定するとして示された引用文献が2件ありました。

引用文献1：[特開 2006-271334](#)

引用文献3：[特開 2005-124567](#)

<拒絶理由通知書に記載された審査官のコメント>

引用文献1には、香料を用いたアルコール炭酸飲料の製造方法であって、アルコール濃度が65vol%以上の高オイル香料及び不沈性の果汁パルプを、アルコール濃度が5vol%以上のシロップ中に添加して混合することにより、前記高オイル香料が前記不沈性の果汁パルプに吸着して安定化したシロップを得る工程と、前記工程で得られたシロップを水で希釈した後、炭酸ガスを溶解させてアルコール炭酸飲料を得る工程と、を含むアルコール炭酸飲料の製造方法が記載されている（特許請求の範囲）。また、果汁パルプを

レモンから得ることも記載されている（段落【0035】）。そして、95%アルコール 76ml、55wt%果糖ぶどう糖液糖 50g、クエン酸 2.5g、6 倍濃縮グレープフルーツセミクリア果汁（パルプの平均長さ 40 μ m）5g、水 129g を混合して、アルコール 35%のグレープフルーツ果汁アルコール 5 倍シロップを調製したこと、これに、オイル含量 4%の 80%アルコールグレープフルーツ香料を 1ml 添加したこと、香料を添加した際には白濁が生じたが、よく攪拌することにより、析出した香気成分を果汁中のパルプに吸着させたこと、これを 5 倍に希釈するとさらに白濁したこと、炭酸ガスを 2.3vol 加えて缶内に充填することにより、アルコール 80%の高オイル香料を用いたグレープフルーツチューハイを得たこと等が具体的に記載されている（実施例）。

また、引用文献 1 に記載のアルコール炭酸飲料は、「柑橘系果汁含有飲料中の乾燥重量当たりのパルプ分に吸着された精油成分の油滴数が、150 個/ μ g 以上、500 個/ μ g 以下である」と解される。

したがって、本願の請求項 1 に係る発明は、引用文献 1 に開示されたものである。

引用文献 3 には、果物から得られたパルプに、果汁又は糖類、糖アルコール、又は、水を添加して、1~80Brix の溶液とし、パルプ含有溶液を得るパルプ含有溶液製造工程と、このパルプ含有溶液製造工程で得られたパルプ含有溶液に油溶性香料の添加をし、当該油溶性香料の添加がなされたパルプ含有溶液を得る香料添加工程と、この香料添加工程により得られた、油溶性香料の添加がなされたパルプ含有溶液を均一化してシロップにする溶液シロップ化工程と、この溶液シロップ化工程で得られたシロップをアルコール飲料に添加して混合をするアルコール飲料化工程とを含むアルコール炭酸飲料の製造方法が記載されている（特許請求の範囲）。そして、レモン果実を全果搾汁し、摩砕し、粒径が 1~100 μ m の細かいパルプを含むレモンコミュニティ果汁を得たこと、得られたパルプ入りコミュニティ果汁 100 重量部に、80 重量部の砂糖を加えて 50Brix の溶液とした。そして、この溶液 100 重量部にレモンピールオイルからテルペン類を減らして 4 倍濃縮した油溶性香料を 0.5 重量部添加してホモジナイズし、シロップとしたこと、このシロップ中のパルプはオイルを吸着して安定化していたこと、このシロップをチューハイに 1 重量%加えることにより、0.005 重量%の油溶性香料を含んだフレッシュな香気の柑橘チューハイを得ることができたこと等が具体的に記載されている（実施例）。

また、引用文献 3 に記載のアルコール炭酸飲料は、「柑橘系果汁含有飲料中の乾燥重量当たりのパルプ分に吸着された精油成分の油滴数が、150 個/ μ g 以上、500 個/ μ g 以下である」と解される。

したがって、本願の請求項 1 に係る発明は、引用文献 3 に開示されたものである。

皆様は、この引用文献を抽出することができたでしょうか？ また、どのような検索戦略を立案すればヒットさせられるでしょうか？

2. 発明の認定および題材公報と引用文献との対比

まずは、調査対象とした発明の認定作業から行いましょう。

今回の調査対象となる【請求項1】は、柑橘系果実由来の精油成分と、果実由来のパルプを含む果汁とを混合した柑橘系果汁含有飲料です。飲料の具体的な内容を把握するために、発明の実施形態の記載を確認してみると、特に好ましいものとして、レモン果汁を含有するアルコール炭酸飲料が挙げられています。いわゆる「生レモン缶チューハイ」のような飲料であり、長期間保管してもレモンフレーバーの劣化が起こらないように、精油成分をパルプに吸着させた「パルプ吸着精油成分含有果汁」を添加している点が特徴です。

最近の缶チューハイ市場は、従来からのアルコール飲料メーカーに加えて、清涼飲料メーカーが参入したことが話題になっていましたが、なるほど、居酒屋にてジョッキで飲む生レモンチューハイに負けない味を、缶で気軽に楽しめるようになっているはずですね。

さらに、【請求項1】の中では、パルプに吸着させる精油成分の油滴数の数値範囲が限定されています。油滴数を表す単位は請求項の中では「個/μg」と記載されていますが、実施例で説明されている計測値の単位は「個/μL」と記載されています。どちらが正しいのか、それとも、どちらとも正しいのか判断に悩みますが、題材公報はその後に補正が行われており、「個/μg」が「個/μL」と修正されていることから、「個/μL」という単位表記が正しいと予想されます。

もしも、「油滴数」の概念で検索を行うとなると、「油滴数」というキーワードを指定するとともに、その単位を表す「個/μL」という文字列についても検索を行うとモレが少なくなるので、間違えのない単位表記を利用したいところです。

ここで、題材公報と引用文献に付与されている特許分類やキーワード表現の、一致点、相違点について確認してみましょう。図1は題材公報と引用文献の対比表です。今回は、後に説明する検索報告書の中で「X（エックス）カテゴリ：新規性なし」として抽出された1件の公報も加えて対比してみました。

対比公報	題材公報	引用文献 1	引用文献 3	検索報告書 X カテゴリー
	特開2016-096756	特開2006-271334	特開2005-124567	特開2009-011246
出願人	麒麟株式会社／麒麟麦酒株式会社	アサヒビール株式会社	アサヒビール株式会社	アサヒビール株式会社
F I (公報記載)	A23L2/02B C12G3/00		A23L2/00B A23L2/00T A23L2/02	A23L2/02A A23L2/02B
		C12G3/04	C12G3/04	C12G3/04
			C12G3/06	
F ターム (公報記載) 主要概念に係るコードのみ	4B017 LC02 LG02 LG04 LL01 4B117 LC02 LG02 LG04 LL01	4B015 AG09 LH01	4B015 LH01 MA03 NG11	4B015 LH01 LH03 MA03 NG11
			4B017 LC02 LE04 LG01 LG04 LL01	4B017 LC02 LG01 LG02 LL01
キーワード	柑橘系(レモン、ミカン、オレンジ、グレープフルーツ、ブタン、ライム、ユズ、キンカン) 果実 果汁	柑橘類(ミカン、クネンボ、ザボン、ブシュカン、ダイダイ、ユズ、オレンジ、レモン、グレープフルーツ) 果実 果汁	柑橘類(ミカン、クネンボ、ザボン、ブシュカン、ダイダイ、ユズ、オレンジ、レモン、グレープフルーツ) 果実 果汁	※柑橘の記載なし レモン、グレープフルーツ、オレンジ 果実 果汁
	精油	オイル香料 エッセンス香料 精油	油性香料 芳香性オイル 精油	水溶性アロマ エッセンスオイル ※精油の記載なし
	パルプ	パルプ	パルプ	パルプ
	吸着油滴数(150～500個／ μ g、150～500個／ μ L)	記載なし	記載なし	記載なし

図 1 題材公報と引用文献の対比

特許分類について比較してみると、対比した4件の全てに共通して付与されているF IもF タームありませんでした。ただし、題材公報以外の3件に共通して付与されたF IとF タームとして「C 1 2 G 3 / 0 4 : 混合によるアルコール飲料の調整 (例. リキュール調整)」「4 B 0 1 5 L H 0 1 : 野菜、果実類を含む酒類」が確認できました。

題材公報の名称が「柑橘系果汁飲料」であることから、オレンジジュースなどを思い浮かべそうですが、アルコール飲料に関する特許分類を採用できたか否かが、一つの勝負の分かれ目であったと思われます。

キーワード表現について比較してみると、検索報告書で見られた文献には、「柑橘」という言葉は使われず、具体的な「レモン、グレープフルーツ、オレンジ、...」というキーワードしか使われていませんでした。また、「精油」という言葉も使用されず、「水溶性アロマ、エッセンスオイル、...」というキーワードしか使われていませんでした。上位概念のキーワードとともに、具体的な表現のキーワードも併用することの重要性を改めて認識させられます。

皆様はアルコール飲料の特許分類を手当てできたでしょうか？また、キーワードの類義語もうまく展開して、引用文献をヒットさせることはできたでしょうか？

3. 検索報告書からの学び

今回の題材では登録調査機関に検索外注が行われ、登録調査機関より検索報告書が作成されていました。検索報告書の中では検索論理式やスクリーニングサーチの結果について報告されているので、登録調査機関の調査員が、どのような検索アプローチを実施しているのかを確認できます。

今回の調査は国内と外国の両方の調査が行われていましたが、国内特許調査については、No. 1～11までの検索アプローチが行われていました。実際に行われた検索論理式とヒット件数を図2に示しました。

■検索論理式

年月範囲：年月日～2014年 11月 19日

【No.】	【クレームNo.】	【テーマコード】	【検索論理式】	【件数】
1	1-8	無テーマ	([311002447/AP+307027577/AP]*[菊間,2C,祥子/IN+岩崎,2C,健太郎/IN])/TX ←題材公報の発明者	6
2	1-8	無テーマ	(果汁*パルプ*油滴)/TX-¥01	43
3	1-8	4B117	LG02*LL01*(パルプ+繊維)/TX-¥01-¥02	39
4	1-8	4B117	LC02*LG02*LL01-¥01-¥02-¥03	86
5	1-8	4B117	LC15*LG02*LL01-¥01-¥02-¥03-¥04	13
6	1-8	4B117	(油滴+液滴+油分+オイルミスト+脂肪球+脂肪滴+脂肪粒),20N,(パルプ+繊維+セルロース)/TX-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05	29
7	1-8	4B115	MA03*(パルプ+繊維+セルロース)/TX-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06	47
8	1-8	4B115	(果汁+果実+フルーツ+果物+柑橘+かんきつ+カンキツ+レモン+れもん+檸檬+ミカン+みかん+蜜柑+オレンジ+グレープフルーツ+ライム+ユズ+シトラス+ゆず+スダチ+すだち+ダイダイ+かぼす+カボス+八朔+キンカン+ブンタン),20N,(パルプ+繊維)/TX-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06-¥07	105
9	1-8	4B128,4B027,4B001	(果汁+果実+フルーツ+果物+柑橘+かんきつ+カンキツ+レモン+れもん+檸檬+ミカン+みかん+蜜柑+オレンジ+グレープフルーツ+ライム+ユズ+シトラス+ゆず+スダチ+すだち+ダイダイ+かぼす+カボス+八朔+キンカン+ブンタン),20N,(パルプ+繊維)/TX-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06-¥07-¥08	209
10	1-8	4B115,4B027,4B001,4B128	(油滴+液滴+油分+オイルミスト+脂肪球+脂肪滴+脂肪粒),20N,(パルプ+繊維+セルロース)/TX-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06-¥07-¥08-¥09	23
11	1-8	無テーマ	(パルプ+繊維),20N,(精油+香料+アロマ+テルペン+テルペノイド+リモネン+シトラール+クマリン+フラボノイド),20N,(劣化+低下+悪化+変化+腐食+変質+変動+減少+変色)/TX-¥01-¥02-¥03-¥04-¥05-¥06-¥07-¥08-¥09-¥10	103

※国内特許調査の検索式のみを抜粋

図2 検索報告書の検索論理式

題材公報の発明者名を指定したNo. 1と、発明のポイントとなる「果汁パルプに付着した油滴」のキーワード検索を行ったNo. 2の検索論理式から始まり、No. 3～6の検索論理式では「非アルコール性飲料のテーマ：4B117」を間口とした検索が行われています。さらに、No. 7～8の検索論理式では「酒類：4B115」を間口とした検索アプローチが行われています。

今回は、Fタームとキーワードとを、単独または組み合わせて検索が実施されていますが、FIを使った検索は行われていませんでした。

そして、スクリーニングが行われた結果を図3に示しました。国内特許調査により8件の文献が抽出され、No. 8として抽出された提示文献が今回の引用文献1であり、No. 4の提示文献が引用文献3として拒絶理由通知の中で採用されています。

■スクリーニングサーチの結果

【No.】	【提示文献の種別】	【対話型追加文献の種別】	【提示文献】	【代表カテゴリ】	【式No.】
1	特許文献		特開2009-011246号公報	X	3
2	特許文献		特開2007-020433号公報	A	3
3	特許文献		特開2007-116939号公報	A	8
4	特許文献		特開2005-124567号公報 (引用文献3)	A	7
5	特許文献		国際公開第2011/148761号	A	2
6	特許文献		特開2010-252640号公報 (引用文献2)	A	7
7	特許文献		特開2010-273658号公報	A	関
8	特許文献		特開2006-271334号公報 (引用文献1)	A	2

※国内特許調査により抽出された文献のみを抜粋

図3 検索報告書のスクリーニングサーチの結果

審査官が新規性欠如の証拠として提示した、提示文献No. 4（引用文献3）とNo. 8（引用文献1）は、検索報告書においては「Aカテゴリ：一般の技術水準を示すもの」として評価されています。提示文献No. 4（引用文献3）とNo. 8（引用文献1）には、題材公報の【請求項1】の構成要件である「パルプに吸着させる精油成分の油滴数」の記載が見当たりません。そのため、調査員は「X（エックス）カテゴリ：新規性なし」ではなく「Aカテゴリ：一般の技術水準を示すもの」と評価したと思われます。一方で、調査員が「X（エックス）カテゴリ：新規性なし」として評価した提示文献No. 1にも「パルプに吸着させる精油成分の油滴数」の記載は見当たりませんが、発明の目的が「フレーバーの劣化防止」であり、題材公報の「香味成分の劣化抑制」に近いことから「X（エックス）カテゴリ：新規性なし」として評価したと思われます。

それに対し審査官は、提示文献No. 4（引用文献3）とNo. 8（引用文献1）を「X（エックス）カテゴリ：新規性なし」として評価しています。2つの引用文献には「精油をパルプに吸着させた状態を安定化させること」が記載されており、審査官は「吸着を安定化させることが長期間保管時の劣化抑制につながる」と判断したと推測されます。

この事例をご覧いただくとご理解いただけると思いますが、先行技術調査における新規性や進歩性の判断（言い換えれば、X、Y、Aカテゴリの評価）は難しいことは否めません。しかし、検索戦略を考える段階では、まずは、調査対象の請求項に記載されている構成を全て抽出することを目的にすればよいのです。まずは、単一の文献に請求項に記載されているすべての構成要件が記載されている文献を抽出し、次には、他の文献との組み合わせにより全ての構成要件が公知となっていることを示す文献を抽出することを考えましょう。

4. 付与された特許分類の確認は経過情報の出願情報を確認する

検索に用いる F I や F タームなどの特許分類を検討するにあたり、予備検索により把握した適合公報に付与されている特許分類を確認すると思いますが、皆様は適合公報に付与された特許分類をどのように確認しているのでしょうか？

図 4 には公報に記載された特許分類を示しています。予備検索を実施して以下の公報が適合公報として確認できたら、この公報に付与された F I や F タームを使用して検索式を立案しようと思います。

ご存じのとおり、特許分類は世の中の技術の進歩変遷に伴い、新設や改廃が行われています。公報に記載される特許分類は、あくまでも、公報が発行された時点で運用されている特許分類コードが記載されます。今回の事例では F タームに着目してみましょう。

この公開特許公報は 2005 年に発行されており、その時点での F タームのテーマは「4 B 0 1 5 : 酒類」と「4 B 0 1 7 : 非アルコール性飲料」が付与されています。

(19) 日本国特許庁(JP)	(12) 公 開 特 許 公 報(A)	(11) 特許出願公開番号 特開2005-124567 (P2005-124567A)
		(43) 公開日 平成17年5月19日(2005.5.19)
(51) Int. Cl. ⁷	F I	テーマコード (参考)
C 1 2 G 3/06	C 1 2 G 3/06	4 B 0 1 5
A 2 3 L 2/00	A 2 3 L 2/02	A 4 B 0 1 7
A 2 3 L 2/02	C 1 2 G 3/04	
C 1 2 G 3/04	A 2 3 L 2/00	B
	A 2 3 L 2/00	T
審査請求 未請求 請求項の数 20 O L (全 15 頁)		
(21) 出願番号 特願2004-210590 (P2004-210590)	(71) 出願人 000000055	
(22) 出願日 平成16年7月16日 (2004. 7. 16)	アサヒビール株式会社	
(31) 優先権主張番号 特願2003-343551 (P2003-343551)	東京都中央区京橋 3 丁目 7 番 1 号	
(32) 優先日 平成15年10月1日 (2003. 10. 1)	(74) 代理人 100106002	
(33) 優先権主張国 日本国 (JP)	弁理士 正林 真之	
	(72) 発明者 三浦 裕	
	茨城県守谷市緑 1 丁目 1 番 2 1 号 アサヒ	
	ビール株式会社酒類研究所内	
	F ターム (参考) 4B015 LH01 LH12 MA03 NB01 NG11	
	NG17	
	4B017 LC02 LE04 LE10 LG01 LG04	
	LK04 LL01 LP02 LP10 LP13	
	LP16	

図 4 公開特許公報に記載された特許分類

しかし、「4 B 0 1 5 : 酒類」「4 B 0 1 7 : 非アルコール性飲料」はその後にテーマコードが変更となり、「4 B 0 1 5 : 酒類」は「4 B 1 1 5 : 酒類」へ、「4 B 0 1 7 : 非アルコール性飲料」は「4 B 1 1 7 : 非アルコール性飲料」へと変更されているのです。

Fタームの改廃情報については、J-P l a t P a tの「特許・実用新案分類照会(P M G S)」のページのトップ部分にある「テーマ改廃情報」や「テーマコード表」のリンクをたどっていくと確認することができます。図5には飲料に関連するFタームを抜粋したテーマコード表を示しています。

テーマ情報 Theme information					Fタームデータ F-term data				
テーマ コード Theme code	解析停止 Deactivated	解析 タイプ Type	テーマ名 Theme name	Fカバー範囲 FI coverage	改正情報(メンテ内容等) Maintenance information	Fタームの 有無 F-term existence	解析年範囲 Assigned period		再解析中 Under reassignment
							開始年 Start	終了年 End	
4B001		部分F	乳製品	A01J1/00-99/00; A23C1/00-23/00		○			
4B015	○	部分F	酒類	(C12G1/00-3/12)	4B115へ変更(H26)	○		2014	
4B017	○	F	非アルコール性飲料	(A23L2/00-2/40)	4B117へ変更(H27)	○		2015	
4B027		F	茶・コーヒー	A23F3/00-5/50		○			
4B028	○	部分F	発酵液の蒸留、酒類の加工、食酢及びビール	(C12C1/00-13/06; C12F1/00-5/00; C12H1/00-1/22; C12J1/00-1/10@Z; C12L3/00-11/00)	4B128へ変更(H27)	○		2015	
4B104		F	飲料を作る装置	A47J31/00-31/60,105	リスト再作成旧4B004、 解析要否変更(H20)	○			
4B115		部分F	酒類	C12G1/00-3/08,102; C12H6/00-6/04	リスト再作成旧4B015(H26)、 解析要否の変更(H26)	○			
4B117		F	非アルコール性飲料	A23L2/00-2/84,101	リスト部分改訂旧4B017(H27)	○			
4B128		部分F	酒類の加工、食酢及びビール、発酵副産物の採取、変性アルコールの調製	C12C1/00-13/10; C12F3/00-5/00; C12H1/00-3/04; C12J1/00-1/10@Z; C12L3/00-11/00	リスト部分改訂旧4B028(H27)、 解析要否の変更(H27)	○			

図5 Fタームのテーマコード表

「4B015：酒類」は2014(H26)年に「4B115：酒類」へと変更されており、2015年以降に発行された公報には「4B115：酒類」の分類コードが記載されています。また、「4B017：非アルコール性飲料」は2015(H27)年に「4B117：非アルコール性飲料」へと変更されており、2016年以降に発行された公報には「4B117：非アルコール性飲料」の分類コードが記載されています。

FIとFタームは分類の改廃が行われると、過去に発行された公報にも遡及して最新の分類コードが再付与される運用となっていることから、最低でも最新の分類コードを使って検索を行いたいのです。より、検索モレのリスクを回避するためには、新旧両方の分類コードを指定したいところです。

では、適合公報に付与されている最新の特許分類コードを確認するにはどうしたらよいのでしょうか？

図6には、図4で示した公開特許公報の経過情報を示しました。J-P l a t P a tの「経過情報」のボタンをクリックすると表示される「経過情報表示」の画面で「出願情報」のタブを選択すると表示される画面です。

経過情報表示 | J-PlatPat [JPP] - 個人 - Microsoft Edge

https://www.j-platpat.inpit.go.jp/h0000

経過記録 出願情報 登録情報

出願情報 閉じる

出願記事 特許 2004-210590 (2004/07/16) 出願種別(通常)

公開記事 [2005-124567](#) (2005/05/19) 縦通号数(69) 年間通号数(50019) 発行区分(0101)

登録記事 [4818593](#) (2011/09/09) 縦通号数(370) 年間通号数(110045) 公報発行日(2011/11/16)

国内優先権記事 特許 (2003-343551) 主張日(2003/10/01)

出願人・代理人記事 出願人 東京都墨田区 (311007202) アサヒビール株式会社
代理人 対象出願人人数(1) 代理人(国内) (100106002) 正林 真之

発明者・考案者・創作者記事 茨城県守谷市 三浦 裕

F I 記事 [C12G3/06](#)
[C12G3/04](#)
[A23L2/02A](#)
[A23L2/00B](#)
[A23L2/00T](#)
[A23L2/385](#)
[A23L2/52](#)
[A23L2/54.101](#)
[A23L2/56](#)
[A23L2/64](#)
[A23L2/68](#)

デマコード記事 [4B015](#)
[4B017](#)
[4B115](#)

Fターム記事 [4B117](#)
■ 4B015 LH01 ■
■ 4B015 LH12 ■
■ 4B015 MA03 ■
■ 4B015 NB01 ■
■ 4B015 NG11 ■
■ 4B015 NG17 ■
■ 4B017 LC02 ■
■ 4B017 LE04 ■
■ 4B017 LE10 ■
■ 4B017 LG01 ■
■ 4B017 LG04 ■
■ 4B017 LK04 ■
■ 4B017 LL01 ■
■ 4B017 LP02 ■
■ 4B017 LP10 ■
■ 4B017 LP13 ■
■ 4B017 LP16 ■
■ 4B115 LH01 ■
■ 4B115 LH12 ■
■ 4B115 MA03 ■
■ 4B115 NB01 ■
■ 4B115 NG11 ■
■ 4B115 NG17 ■
■ 4B117 LC02 ■
■ 4B117 LC03 ■
■ 4B117 LC14 ■
■ 4B117 LE04 ■
■ 4B117 LE10 ■
■ 4B117 LG01 ■
■ 4B117 LC06 ■

図6 経過情報照会の出願情報に記載された特許分類

図6に示したように、経過情報照会から「Fターム記事」の欄を確認すると、「4B015：酒類」「4B017：非アルコール性飲料」「4B115：酒類」「4B117：非アルコール性飲料」のそれぞれの新旧のFタームを確認することができます。図4の公開特許公報に記載された分類のみを指定すると、変更が行われた以前の公報しかヒットしないこととなりますが、図6のFターム記事に掲載された最新のFターム合わせて検索を実施すれば、過去から最新の分までを対象に検索を実施することができます。

このように、適合公報に付与されている特許分類を確認する際には、予備検索で抽出した適合公報の公報表記の分類のみならず、経過情報を参照して得られる新旧の特許分類を確認して検索に用いることをおすすめします。

5. 実行したい検索式の具体例

今回の題材で実施できたら良いと思われる検索式の事例をご紹介します。アルコール飲料の F I と F タームを使ったラインと、非アルコール飲料の F I と F タームを使ったラインと、キーワードのみを使ったラインの検索式を紹介します。

F I = C 1 2 G 3 / 0 4

× 全文 = (精油+油溶性香料+オイル香料+エッセンシャルオイル+エッセンス+芳香油+芳香性オイル)

× 全文 = (パルプ+繊維+セルロース)

→ヒット件数：59件 題材公報：× 引用文献1：○ 引用文献3：○

「C 1 2 G 3 / 0 4：混合によるアルコール飲料の調整（例．リキュール調整）」に対して、全文中に「精油」と「パルプ」の概念のキーワードを含むものに絞り込みました。

F ターム = (4 B 1 1 5 L H 0 1 + 4 B 0 1 5 L H 0 1)

× 全文 = (精油+油溶性香料+オイル香料+エッセンシャルオイル+エッセンス+芳香油+芳香性オイル)

× 全文 = (パルプ+繊維+セルロース)

→ヒット件数：18件 題材公報：× 引用文献1：○ 引用文献3：○

「4 B 1 1 5 L H 0 1 + 4 B 0 1 5 L H 0 1：野菜、果実類を含む酒類」に対して、全文中に「精油」と「パルプ」の概念のキーワードを含むものに絞り込みました。

F I = A 2 3 L 2 / 0 2

× 全文 = (精油+油溶性香料+オイル香料+エッセンシャルオイル+エッセンス+芳香油+芳香性オイル)

× 全文 = (パルプ+繊維+セルロース)

× 全文 = (吸着+付着+添着+油滴)

→ヒット件数：44件 題材公報：○ 引用文献1：× 引用文献3：○

「A 2 3 L 2 / 0 2：果実または野菜ジュースを含有する非アルコール性飲料」に対して、全文中に「精油」と「パルプ」と「吸着」の概念のキーワードを含むものに絞り込みました。

Fターム＝（4 B 1 1 7 L L 0 1*4 B 1 1 7 L C 0 2
 + 4 B 0 1 7 L L 0 1*4 B 0 1 7 L C 0 2）

× 全文＝（パルプ+繊維+セルロース）

× 全文＝（吸着+付着+添着+油滴）

→ヒット件数：18件 題材公報：○ 引用文献1：× 引用文献3：○

「4 B 1 1 7 L L 0 1+4 B 0 1 7 L L 0 1：精油」と「4 B 1 1 7 L C 0 2+4 B 0 1 7 L C 0 2：着香の改善」とを掛け合わせたFタームに対して、全文中に「パルプ」と「吸着」の概念のキーワードを含むものに絞り込みました。

名称+要約+請求項＝飲料

× 全文＝[精油, 油溶性香料, オイル香料, エッセンシャルオイル, エッセンス, 芳香油, 芳香性オイル]*[パルプ, 繊維, セルロース]*[吸着, 付着, 添着, 油滴]語順指定なし 100文字以内

→ヒット件数：9件 題材公報：○ 引用文献1：○ 引用文献3：○

発明の主要部に「飲料」の概念のキーワードを含み、全文中に「精油」と「パルプ」と「吸着」とが近接するものに絞り込みました。少ない件数の中に題材公報と引用文献の全てが含まれています。

6. 今回の事例から学んだポイント

今回の演習課題への取り組みにより得られた知見をまとめます。

- （１）適合公報に付与された特許分類の確認は、経過情報照会の出願情報を参照する。
- （２）選定した特許分類の改廃の有無を確認し、新旧両方の分類コードを指定する。

日本独自に運用されているF IとFタームは、細かな絞り込みが可能であるとともに、最新の分類コードが過去に遡及して再付与される、優れた検索インデックスであると思われます。改廃の有無を確認するとともに、F IとFタームとの関連性や、その成り立ちを理解して、効果的に活用したいですね。

－以上－